

# フィールド風

(現場)からの風

宮田守男

11月下旬、大町市内で開催された松本信用金庫北部地区4店舗共同開催の勉強会に参加する。テーマは「今注目されるSDGs」(エ

ステイジーズ)とは?。講師は、MS & Dインタリースタイル株式会社上席コンサルタント寺田祐さん。SDGsは、2015年9月の国連総会で採択された「我々の世界を変革する持続可能な開発のための2030アジェンダ」と題する成果文書で示された、2030年に向けた具体的行動指針で、持続可能な開発のための17のグローバル目標と169のターゲット(達成基準)からなる国連開発目標だ。

白馬村でも8月に、持続可能な地域づくりを学び、実践する事を目的にHakuba SDGs Labが設立され活動を展開、9月には活動に当初から参加する白馬高校生の有志3名が「グローバル気候マーチin白馬」を企画、JR白馬駅から白馬村役場まで

また11月からは、県内の金融機関でSDGsの達成に取り組みる企業を対象に、引き受け手数料の一部を優遇する私募債の取り組みが

は、参加者の今後の取り組み意識を高めた。経済発展には、「豊かな自然環境」・「安定した社会」が必要で、経済最優先社会は大きなリスクがある事を再認識させた。これからは、「世界的な視点から、何が必要か、について外部から検討し、それに基づき目標を設定」との説明に、最前列で熱心にメモを取るロッシリバーサイドやまや経営者の松本平司さんの姿に大北地域での今後の取り組みが楽しみになる。



講師のSDGsをヒントにしてビジネス展開する企業紹介は魅力的だった

様々な文化活動を大切にしている。今後SDGsの取組に注目して行きたい。(NPO法人信州地域社会フォーラム理事・白馬村森上)

## 持続可能な成長は環境への視点が大切だ

120人の参加者がプラカードを持って行進し、白馬村長に気候非常事態宣言の要望書と署名が提出された。白馬村文化祭会場でも、活動紹介コーナーが設置され、「白馬で滑り続けたい」を

始めるなど中小企業経営者にSDGsは新たな知識としての勉強会だった。現在の世界における課題や日本の課題、特に地球温暖化と気候変動でアジア地域が大規模洪水の発生確率が上昇するなどの資料

長野県は、「中山間地域が多い長野県から、自然との共生や多